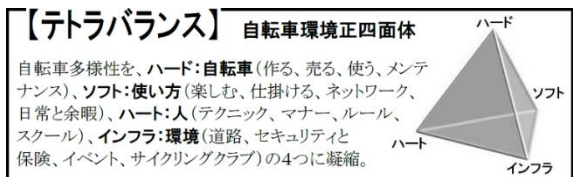


# Bike is Good

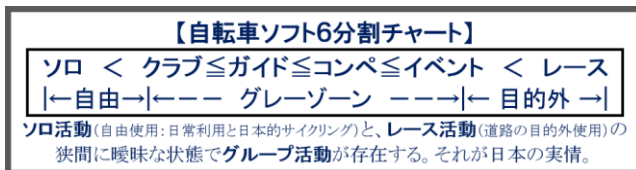
日常利用では最も身近な移動手段であり、スポーツ利用では趣味からオリンピックまで幅広く、その多様性に驚かされる自転車。しかし自転車文化先進国とは言い難い、その走行環境の法的根拠が曖昧なのが「日本の実情」。

その空白部分の補完を模索する自転車遊び実証実験実践チーム『転遊研』で、約15年前から提唱しているのが、ハード、ソフト、インフラ、ハートの四面から自転車市民権獲得を目指す「サイクリングネットワーク再構築」。



その間、震災需要やインバウンド需要があり、自転車活用推進法も施行されましたが、「日本の実情」に大きな変化はなく、逆に日常利用では子乗せ電動アシスト自転車問題が、スポーツ利用ではグループサイクリングのグレーゾーン問題が、それぞれ浮上しています。

山口県では、明治維新150周年に合わせるように「サイクル県やまぐち Project」が始まり、シンボルイベントやインフラ整備、人材育成、そして各市町へのサポートなどを行っています。やはり「日本の実情」の壁は見え隠れしています。



それでも首長の号令による大規模イベントサイクリングや、地域興しグループとの連携企画や、市井のサイクリストの活用企画など、日本全体を見渡せば成功例も少なくなく、山口県の地政学的な面から見た各市町やプロショップの適度な距離感を強みとし、他のエリアとは異なるアプローチがあるのではと考えた次第です。

## 山口サイクリングプロジェクト研究会

全国に先駆けて「サイクリングネットワーク再構築」を行う企画提案です。

サイクリングには様々な楽しみ方がありますが、多くのグループサイクリングは道路交通法等で制限があり、それが「日本の実情」の一端となっています。そこで、スーパー先達の所属する地域貢献型マルチサイクリングクラブとして、「山口サイクリングプロジェクト研究会」を新たに立ち上げたいと思います。

山口サイクリングプロジェクト研究会は、様々なサイクリング企画に対してアドバイスやサポートを行い、また空白部分のソフトの模索企画も行う先達集団で、以下のような組織図でマルチな活動を行うことを想定しています。

